

事業番号	07 04 04	事業改善シート（令和5年度実施事業分）				☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	信州地酒振興事業	部局	産業労働部	課・室	産業技術課				
		実施期間	H14 ～	E-mail	sangi @ pref.nagano.lg.jp				

1 現状と課題

- ・酒類の多様化により、日本酒の消費は長期的な減少傾向(S50 41,206kL⇒R2 9,350kL)が続き、酒蔵の生産意欲が低下。
- ・ワイン、シードル産業等への新規参入が相次いでおり(ワイナリー数：H25.3 25場⇒R5.3 80場)、品質の安定的な確保に向けた取組が必要。
- ・コロナ禍の長期化により、酒類全体の出荷量が低迷、長期的な消費や新たな市場の獲得につながる取組が求められている。

2 事業目的

県産日本酒やワイン等の品質向上やP Rにより、信州地酒のブランド化、認知度向上を図り、信州地酒産業の活性化を目指す。

3 事業目的を達成するための取組

①県産酒類のブランド化及び発信、消費の拡大

- ・県産酒類のブランド力向上のため、長野県原産地呼称管理制度(NAC)及び酒類の地理的表示「長野」(GI長野)による認定を実施
- ・県産日本酒及びワインの魅力を発信するため、冊子を作成（日本酒、ワイン）するとともにウェブでの発信（ワイン）を実施
- ・県産酒類の国際的知名度を向上するため、国際コンクールへの出品を支援
- ・信州ワインバレー構想の実現に向けて、関係機関連携によるワイン産地の形成に向けた取組を実施
- ・多様な県産酒類の販路拡大・消費を促進するため、県内外での魅力発信・消費拡大に向けたイベントの開催



②県産日本酒の品質向上に向けた取組

- ・全国新酒鑑評会の金賞受賞数No.1を目指すため、蔵元の技術向上を図るための分析、蔵元指導を実施
- ・純米酒の醸造技術を向上させるための研修会を実施

③県産ワイン及びシードルの品質向上に向けた取組

- ・県内醸造者の技術向上を図るため、全国の先進的な生産者等を招聘した研修会を実施
- ・県内醸造メーカーに対する技術指導を実施するため、工業技術総合センターに分析機器を導入
- ・ワイン、シードルの参入希望者の醸造技術の向上を図るため、里親ワイナリーでの研修を実施

4 成果指標

(推移の凡例 ア：改善 ヱ：悪化 →：変化なし ー：数値なし)

No.	指標名	単位	R3年度			R4年度			R5年度			R5年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	実績	推移	実績	実績	推移			
①	NAC及びGI長野による認定品数	品	276	350	ア	384	ア		336	ア		336	達成	令和5年度は、GI長野による日本酒とワインの出品数の増加を見込み、前年比+5%の336品の認定を見込む
②	全国新酒鑑評会での純米酒入賞数	場	13	16	ア	16	→		18	→		18	未達成	令和4年度の当該鑑評会における県内蔵元の出品56蔵のうち、3割以上の入賞を見込む
③	日本ワインコンクール入賞数	品	中止	70	ー	66	ヱ		75	ヱ		75	未達成	令和4年度の出品数140品のうち入賞数70品。指導体制の向上による品質の向上で、前年比+6%の75品入賞を見込む

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （★印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年	数値	年	数値	年	数値	年	数値
2-1②	稼ぐ力とブランド力の向上	★加工食品の輸出額	億円	2020 (R2)	56.5	2021 (R3)	71.8	2022 (R4)	78.9	2027 (R9)	124
2-2②	地域内経済循環の推進	エンカ消費につながる行動のうち、地産地消を実践している割合	%		-	2022 (R4)	46.5	2023 (R5)	50.1	2027 (R9)	50.0

6 事業コスト

(単位：千円、人)

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R5年度	0	35,607	0	35,607	25,040	27,759	3.5
R4年度	118,508	33,126	98,000	249,634	26,357	138,407	3.5
R3年度	0	36,329	370,132	406,461	28,771	230,878	4.0

事業番号	07	04	04	事業改善シート（令和5年度実施事業分）	☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	信州地酒振興事業			部局	産業労働部	課・室	産業技術課	

7 主な取組実績と成果

①県産酒類のブランド化及び発信、消費の拡大

・日本酒、ワイン、シードルの品質を高め、ブランド力向上による消費拡大を図るため、日本酒・焼酎官能審査委員会を3回、ワイン・シードル官能審査委員会を4回を開催し、NAC及びGI長野認定品を384品認定した

・国際コンクールへの出展については、12場（延べ45品）に対して、出品料、輸送料等に対する補助を実施し、インターナショナル・ワイン・チャレンジ(IWC)において、ワインはシルバーメダルを1点受賞した。日本酒は同SAKE部門において8品がゴールドメダルを獲得した。

②県産日本酒の品質向上に向けた取組

全国新酒鑑評会での純米酒入賞数の増加を目指し、スーパーバイザーによる製造技術向上支援研修を開催し、63名が参加するとともに、県外杜氏を招いた純米酒醸造研修等を1回実施し、42蔵への技術向上指導を実施した結果、全部門の出品酒のうち金賞受賞数は16点となった。

③県産ワイン及びシードルの品質向上に向けた取組

・毎年長野県ワイン研究会を開催することで継続的に県産ワインの品質向上を図り、R5年度日本ワインコンクールでは県産ワインの金賞受賞数は全国1位の結果となった。R5年度同研究会には25場59名が参加した。

・県産シードルの品質向上を図るため、県工業技術総合センターと連携した醸造セミナーを開催し、10場12名が参加した。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標①	NAC及びGI長野による認定品数	R4年度推移	↗	R5年度推移	↗	達成状況	達成
GI長野についてはR3年度に指定されてから、長野県酒造組合やワイン協会と連携し品質や認知度向上に向けた取組を実施しており、GI長野の認定数は年々増加傾向にある。							
指標②	全国新酒鑑評会での純米酒入賞数	R4年度推移	↗	R5年度推移	→	達成状況	未達成
全国新酒鑑評会では、味・香りなどのわずかな欠点が大きく評価を下げる原因となり、純米酒はその欠点が目立つ傾向にある。長野県は出品酒の多くを純米酒が占めており、純米酒入賞数は目標に達しなかったものの、全国トップレベルの入賞数を誇っている。							
指標③	日本ワインコンクール入賞数	R4年度推移	—	R5年度推移	↘	達成状況	未達成
入賞数は目標には達しなかったものの、金賞受賞数は前年度に続き全国1位であり、国内全体のワインの醸造技術が高まる中でも確実な実力をつけている。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題

・全国新酒鑑評会での純米酒入賞場数については、近年、安定して上位入賞する傾向にあり、純米酒醸造技術向上への継続的な支援が必要。

・日本ワインコンクール入賞数については、入賞数増のため県内ワイナリーの醸造技術の底上げが必要。

(2) 事業改善の方策

・日本酒に関しては、長野県酒造組合等と連携し、引き続き純米酒醸造技術向上に向けた取組を進めていく。

・ワインに関しては、県工業技術総合センター、長野県ワイン協会等と連携した取組を通じて県内ワイナリー全体の醸造技術向上を図る。

事業番号	07 04 04	細事業一覧（令和5年度実施事業分）			☐ 当初要求 ☐ 当初予算案 ☐ 補正予算案 ☒ 点検		
事業名	信州地酒振興事業			部局	産業労働部	課・室	産業技術課

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
1	長野県原産地呼称管理制度運営事業		7,056 千円	6,182 千円	6,091 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和 5 年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	長野県原産地呼称管理委員会運営費	負担金	長野県原産地呼称管理制度及び酒類の地理的表示「長野」（GI長野）の認定審査及びPR活動の実施 認定審査の開催（日本酒・焼酎：3回、ワイン・シードル：4回）		

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
2	信州日本酒No. 1プロジェクト事業		12,591 千円	12,098 千円	12,480 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和５年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	信州日本酒No. 1 プロジェクト事業	委託	醸造専門家による全国新酒鑑評会受賞酒の酒質解析、全国新酒鑑評会出品酒用の原料分析等を外部委託 【想定委託先：長野県酒造組合】		
			酒質分析件数：20件		
2	県産米の純米酒醸造研究事業	直接	県内酒蔵が、県産酒造好適米の特性を踏まえた醸造を行えるよう純米酒製造工程の研究を行うとともに、醸造者を対象とした技術指導研修会を開催		
			研修会の開催：２回		

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
3	信州日本酒 P R 事業		2,000 千円	900 千円	650 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和 5 年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	日本酒PR冊子の作成	直接	県産日本酒の特徴である県産酒造好適米や G I 長野の内容を掲載した日本酒ブックレットを作成 印刷数：5,000冊 県内酒蔵、観光施設等へ配布		

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
4	信州ワインバレー構想推進事業		311 千円	256 千円	400 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和 5 年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	信州ワインバレー構想推進協議会運営費	負担金	「信州ワインバレー構想2.0」冊子の作成、県内ワインバレー毎に開催される、試飲会等の取組みを支援 冊子作成：500冊、支援ワインバレー数：1カ所		

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
5	ワイン・シードル醸造技術支援事業		544 千円	750 千円	952 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	里親ワイナリー研修	直接	ワイナリー及びサイダリーの新規開業希望者等を対象とした生産者の下における研修 機会の創出 里親研修受け入れワイナリー数：4場、里親研修受講者数：5名		
2	醸造技術等向上に向けた研修会の開催	直接	国内先進地の技術者等を招聘し、県内ワイナリー・サイダリーの醸造技術等の向上 に向けた研修会を実施 醸造技術研修会：2回		
3	揮発酸分析器の導入	直接	県内ワイナリー・サイダリー自ら理化学検査を行えるよう、工業技術総合センター職員 による指導及び研修を実施するための装置を導入 本機器を用いた研修会：1回、個別相談：47件		

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
6	NAGANO WINEブランド発信事業		10,629 千円	6,099 千円	6,303 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	事業者団体によるNAGANO WINE のPR実施にかかる支援	補助金	長野県ワイン協会によるNAGANO WINEのPR・需要喚起イベントの支援 県内でのリアルイベントの開催：2回		
2	NAGANO WINEの総合的な発信	委託	NAGANO WINE公式HPによる掲載情報の充実及び冊子の改訂・印刷 冊子印刷数：5,000冊 県外事務所、民間ワイン関連施設等へ配布		

細事業 No.	細事業名		R3年度 決算額	R4年度 決算額	R5年度 決算額
7	信州地酒消費促進事業		－ 千円	5,019 千円	883 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和5年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	県内各地における県産酒類を統一的 にPRし販路を拡大する機会の創出	委託	新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、県下各地で地酒等に係る催しが活発 に開催されるようになり、予定していた関係事業者等との調整に時間を要したため、 県内PRイベント未実施 開催箇所：－		
2	信州カンパイFES開催への協力	負担金	信州地酒の魅力や飲酒に関する正しい知識を普及する、信州カンパイFES実行委 員会の活動を支援 イベントの開催：1回（12月）		
3	国際コンクールへの出品支援	補助金	地酒の国際競争力や認知度向上を図るため、酒蔵やワイナリー等が国際コンクール へ出品する際の費用の一部を支援 出品支援件数：12件		